

榎本重秋さん ぜんち共済株式会社 代表取締役社長

障がい者向けの保険に特化。 意義ある事業を支える人本経営

日本で唯一、知的障がいや発達障がいのある人のための専門保険会社、ぜんち共済株式会社。代表取締役社長の榎本重秋さんは、前身の「全国知的障害者共済会」発足から力を尽くし、障がい者にとって「本当に役立つ保険」を作ることを目指している。企業の障がい者雇用促進の一助ともなるその事業の意義や、起業時の奮闘ぶり、また、現在の右肩上がりの成長を支える人本経営（人を大切にしている経営）などについて語っていただいた。

文◎石田ゆづり 撮影◎したまきひろ



編集部 まずは事業概要から教えてください。

榎本 知的障がい、発達障がい、ダウン症、てんかんのある人に向けた少額短期健康総合保険を扱う、日本唯一の専門保険会社になります。大手でも扱っているところはありますが、専門は当社だけ。知的障がい者の保険引き受けには難しい側面がありますから。まず、病状をうまく説明できない人が多く、加入時に健康状態の告知が取りづらい。また、比較的病気になるやすい人が多かったり、ケガをしたり、させたりという可能性が高いことも、大

手が引き受けをしない理由の一つ。保険金支払いリスクが高く、経営を考えると難しいところがあります。では無保険という状態ではどんなことが起きるのか。障がいのある人たちが病気で入院となると、病院からは個室に入ってほしいといわれ、差額ベッド代が発生する。親は付き添いを求められ、仕事を休み、収入も減る。もちろん国のサポートもありますが、それでは賄い切れない費用負担を、多くのご家族は経験されています。

編集部 その難しい保険を専門で行おうとする御社のビジョンは？

榎本 そもそも私たちは、二〇〇〇年、知的障がい者の親御さんたちが相互扶助の精神で立ち上げた、全国知的障害者共済会を前身としています。当時、私は保険会社の社員で、商社設計などを依頼されて発足に携わりました。その後、会社を辞めて共済会に入り、二〇〇六年、改正保険業法への対応のために保険会社を作るとなった際、理事会の決定によって私がやることになりました。

編集部 なぜ会社を辞めて、共済会

榎本重秋(えのもと しげあき)

1989年明治大学商学部商学科卒業、AIU保険会社入社。2000年チューリッヒ保険会社入社。2004年株式会社日障マネジメント入社。2006年ぜんち共済株式会社設立。2010年一般社団法人日本少額短期保険協会会長就任(4期)。2014年神奈川県中小企業家同友会理事・障害者委員会委員長就任。2014年度精神障害者等雇用優良企業認証事業委員(厚生労働省)

に入られたのですか？

榎本 共済会を立ち上げたとき、「新しい制度ができましたよ」と紹介しながら、親御さんたちと一緒に全国を飛び回っていました。私もちよど子供が生まれ、「子を思う親の気持ち」というものを、親御さんたちから本当に学ばせていただきました。この人たちに恩返しをしたいの思いもありましたし、この保険が、障がいのある人でも入れるとなると、すごく喜ばれる。何かあったときに解決すると本当に感謝される。この仕事を私の一生の仕事にしようと心に決めて、共済会に入りました。

保険会社の設立は 苦難の連続。人に 助けられての二〇年

編集部 来年で設立二〇周年です。どんな一〇年でしたか？

榎本 資金集めも、人の採用も本当に苦労しました。保険業は国の登録を受けるのに、経験者がある程度入れなくてはいけない。しかし、経験者は将来の見えない新会社にはなかなか来てくれない。それでも昔の仲間が二人入ってくれたのですが、登録を受ける過程の膨大な作業の中で迷惑を掛けてしまい、ご退職されたという経緯があります。私が

二人をサポートできなかったのは、

国の登録を受けるまでのおよそ二年間、迫る期限に追われながら朝から晩までひたすら仕事だけをして、メンタルを壊してしまったことが原因です。駅のホームで「飛び込んだら楽になる」と考えたこともありましたが、でもこの会社を作る使命を与えられていましたから。別の自分が「それはやっちゃいけないぞ」と止めてくれました。その後、経営者の人たちを訪ね歩き、アドバイスや力添えをいただきながら一つひとつ乗り越えて、人も集まり、お金も集まり、ようやく登録を受けることができました。それからもたくさん苦労がありました。そのたびに出会いがあり、人に助けられている。だから当社では「すべての出逢いを尊び、心を尽くし誰にでも優しい社会を創造します」という経営理念を掲げています。

編集部 事業は右肩上がり成長していますね。

榎本 厚生労働省の発表では、知的障がい者は七四万人近い。それに対して、当社の加入者はまだ四万人未満です。まだまだ、この保険を必要としているご家族はたくさんいらっしゃると思います。ほかの障がいがある人からも引き受けしてくれないかという話もいただきました

す。将来的にはそれらも視野に入られながら、あくまでも障がい者のための保険会社として、これからもコツコツとやっていきます。

企業にとつては、 働く障がい者のための 福利厚生の一つにも

編集部 御社の保険は、社会インフラとしても価値があるものだと思います。ですが、企業の人事総務の観点からすると、どんな意義があるのでしょう。

榎本 当社は保険金を払うだけでなく、障がい者の生活がより良く

なり、社会の一員として受け入れられる、社会にも貢献できるように会社を目指しています。私は、中小企業の障がい者雇用促進活動にも取り組んでいますが、そうした中、特例子会社をはじめ、企業の障がい者雇用が進んでいることを非常にうれしく思っています。

働く障がい者は、私生活でトラブルに巻き込まれることもあるわけですが、そういうときに企業はどこまでサポートできるか。これは大きな課題です。障がい者雇用率も上がってきている今、いい人材を採用するためにも「働く障がい者のことを考えた福利厚生制度を整えていますよ」という、一つのツールとして当社の保険を活用される会社も出てきています。実際、通勤途中でトラブルを起こしてしまったなど、会社で対応し切れないこともあるでしょう。そういうときは当社が対応すればいい。企業としっかり連携を取りながら、障がい者の人たちと一緒に働く社会を作っていくことが重要です。

編集部 何か経営にプラスの面があれば、もっと障がい者の雇用が進むように思うのですが、どんなことが挙げられますか。

榎本 たとえば、わかりやすいマニュアルが作られるなど、誰しもが働



きやすい社内のインフラ整備がされて、会社の中がどんどん良くなる。また、当社は実習生の受け入れをしただけで、社内の殺伐とした空気が変わりましたし、障がいのある人と一緒に働いていく中で、社員が優しくなり、社内の雰囲気はとても明るくなりました。障がい者雇用が進んでいる企業の方は、みんな口をそろえています。「社員が優しくなった。明るくなった」と。

社員とその家族を 第一に考えた経営で 右肩上がりに成長

編集部 御社の保険が、障がい者雇用を促進するような社会インフラとなっていくためにも、組織を強くし、堅実に成長していかなければならないステージにあると思います。経営において大切にされていることは？

榎本 人を大切にすること、に、いちばん重きを置いています。経営理念にもそれを掲げていますが、経営理念というのは非常に重要です。今いるメンバーも理念に賛同して入ってくれ、ここまでやってこられました。実は会社を作ったときには経営理念を作っておらず、あとから作りしました。それを社内に浸透させるのがまた簡単ではなく、



悩んでいたときに出会ったのが、書籍『人本経営』の著者である社会保険労務士の小林秀司先生です。「企業経営で大切なのは、社員とその家族の幸せを第一に考えることだ」と教えていただき、それが本当に、スーッと自分の中に入ってきました。私も社員とその家族を幸せにしよう、それを第一に考えるようになりました。社員の幸せを追求していけば、お客さまにも、ほかのステークホルダーにも恩返しはできる。おのずと結果もついてくる。最近、それを実感しています。当社には目標数字がありますが、ノルマはありません。それでも右肩上がりで成長しています。

編集部 小林先生の「人本経営実践講座」の第一期生でもありますね。受講しようと思われたきっかけは？

榎本 ちょうど自分が経営上の悩みを抱えているときに小林先生と運命的に出会い、講座を始めるとうかがった。これはチャンスだと思いました。ただ、会社は私の所有物ではないので、ちゃんと役員のメンバーに話し、社員からも受けてく

た。親も喜んでいました！といったうれしい声も聞かれます。また、子供の入学式や卒業式など、家族の重大イベントの日は、私から率先して休み、社員も休んでいます。家族との生活が幸せだと、いい仕事もできる。成果が出ればまたみんな喜んで。そんな流れができる。社員自ら社内イベントを企画するなど、どんどん仲間意識の強い会社になってきています。

編集部 家庭の事情で神戸に戻らなくてはいけなくなった社員のために、急ぎよ、西日本支店準備室を立ち上げること決断をされたとか。

榎本 もともと無理をいって単身赴任してもらい、当社の営業を支えてくれていた社員です。恩があります。しかし、私だけの決断ではありません。役員三人全員が「会社として、理念に従って対応しましょう。神戸に行っても仕事ができる環境を作りましょう」といつてくれた。私の考えとバチッと合っていてうれしかったですね。みんな、ちゃんと人を大切にしているんだな、と。神戸赴任となる彼は、そのあいさつのときに「うちの会社はいい会社です！」といってくれました。「きれいごと」を徹底するというのは、本当にいいことですね。